多文化共修活動（国内･海外）

2026年度　実施内容（予定）

2026年10月7日ver.

No.	カテゴリー	プログラム名 （研修先機関名）	派遣先国･地域 （都市）	使用言語	プログラム内容	実施時期 （期間）	参加対象	募集人数	説明会 実施時期	募集時期	付与単位数	科目名（科目番号） ※単位付与がある場合	多文化共修認定の有無	学生負担の費用	支援金の種類（金額）	開催頻度	問い合わせ先 （メールアドレス）	URL	備考
1	多文化共修活動	茨城県大子町の地域課題解決を目指す多文化共修フィールドスタディ	茨城県大子町	英語.日本語	商店街の振興、気候変動に伴う獣害など農業にかかる問題、インバウンド観光客への対応等、茨城県大子町が有する課題の現状をフィールドワークを通して調査し、国内外の多文化視点で解決法を提案する。課題の解決策がステークホルダーの生活にどのようなインパクトを与えるかを具体的に示すために、マンガのストーリー形式での提案を発表する。	2026/07/03～2026/07/06	学部レベル	12			3	VB20013　Practical Training on Global Issues A-I	有				yada.shuntaro.gf@u.tsukuba.ac.jp		
2	多文化共修活動	海外研修I	インドネシア共和国パプア州	日本語、英語	多国籍企業による熱帯林開発が拡大するインドネシア･パプア州で、現地企業カカオキタ社は熱帯林と先住民の生活を守るために、先住民の協同組合が有機生産するカカオを日本の生活協同組合に輸出するフェアトレード事業を営んでいる。本研修はこのフェアトレード事業を学び、事業の維持･発展に向けた方策を、筑波大学の学生とチェンドラワシ大学の学生がカカオキタ社と協同組合との議論を踏まえて提案する。	2026年9月1日～9月11日（11日間）	国際総合学類の学生のみ	12名	4月後半	4月後半から5月中旬まで	2単位	BC15210	有	29万円（航空券代、宿泊費、食費、その他）	はばたけ筑大生!申請予定	毎年開催	人文社会系　寺内大左 teraucchi.daisuke.gt@u.tsukuba.ac.jp	https://www.kokusai.tsukuba.ac.jp/curriculum/kensyu.html	
3	多文化共修活動	エジプトの世界遺産を対象とした多文化共修型フィールド演習	エジプト・アラブ共和国/ アブ・メナ遺跡・サッカラ遺跡	英語	"エジプトのアブ・メナ遺跡およびサッカラ遺跡は、エジプトの文化と歴史を象徴する重要な遺跡として世界遺産に登録されている。一方で、アブ・メナ遺跡では地下水位の上昇による恒常的な浸水の問題が残っており、サッカラ遺跡では気候変動に起因する豪雨による突発的な浸水被害を受けているなど、今後の保存・継承に関して深刻な課題を抱えている。 本活動では、これらの課題を取り上げ、本学の日本人大学院生とエジプトの日本・エジプト科学技術大学（E-JUST）の大学院遺産科学専攻の学生が混成チームを組み、現地調査（フィールドワーク）を通じて課題の実態を把握する。あわせて、現地の修復者、政府関係者、専門家との意見交換を行い、多様な立場から課題を整理・分析する。 その後、学生主体の議論を通じて、遺跡の保存・管理・将来的な継承に向けた解決策を検討し、提言としてまとめる課題解決型学習（PBL）を実施する。"□	2026年9月1日（火）～2026年10月9日（金）	修士レベル	7			3	0ATV302　建築遺産演習	有				higo.tokihisa.ft@u.tsukuba.ac.jp		
4	多文化共修活動	インドネシア･ジョグジャカルタにおけるガジャマダ大学との多文化共修	インドネシア（ジョグジャカルタ）	英語	宗教･民族･文化の違いを前提とした多文化共生について、UGMの日本語学科および宗教･多文化研究センターの教員･学生と議論し、グループでテーマを設定する。その上で、宗教施設の訪問、同国２大宗教団体を訪問する。各グループでテーマに対する解決案を考えて発表する。	2027年1月20日～2月19日（渡航期間約９日間）	筑波大学　日本人学生５名 他大学　外国人学生５名	10名	未定	11月から12月	未定	AC66102 比較文化国際演習I	有	約30万円（航空券代、宿泊費等含む）	はばたけ筑大生!、およびJASSO申請予定	不定期で実施	比較文化学類事務室 hibun-office@un.tsukuba.ac.jp		
5	多文化共修活動	ジョージアの文化に触れて地方活性化を考える	ジョージア、トビリシなど	英語、日本語、ジョージア語	日本とジョージアでは、地方の過疎化と都市部への人口集中が共通の社会課題として存在する。本活動では、ジョージアの言語や社会、文化をフィールドワークを通して学びつつ、日本人としての視点から課題解決への方策を、本学リエゾン･オフィス設置予定のイリア国立大の学生とともに、ワークショップ形式で実践的に検討する。	2026年9月3日～9月9日（渡航期間10日間）	全学生（筑波大学　日本人学生18名　イリア国立大学　ジョージア人学生9名	20名	6-7月頃	4月1日～5月7日	3単位	AC66033　比較文化国際研修IV	有	約45万円（航空券代、宿泊費）	はばたけ筑大生	その他（備考に記載）	比較文化学類事務室 hibun-office@un.tsukuba.ac.jp		来年度以降のジョージア研修は形態を変えて実施する可能性あり
6	多文化共修活動	日本と台湾における動物と災害～環境人文学の観点から～	日本／筑波大学、希望の牧場・よしざわ、東日本大震災・原子力災害伝承館、筑波実験植物園	日本語・英	近年、人間の経済活動が地球環境に深刻な影響を与えるとされる「人新世」の議論を背景に、人文学と自然科学を融合した新しい学問領域が創出されている。本活動では、台湾国立台東大学英語学科の学生とともに、日本および台湾における動物と災害をめぐる問題について、環境人文学やアニマル・スタディーズの観点から学際的な学習を行うことを目的とする。	6月15日（月）～6月19日（金）	修士レベル	13			1	0ABE326　世界の文学・文化と日本２A	有				eguchi.maki.fw@u.tsukuba.ac.jp		
7	多文化共修活動	国際教育協力実習	タイ（コンケン）	タイ語、英語、日本語	国際協力を目指したタイ学校での日本語指導	2026年8月31日~9月13日	2･3年次、教育学類生･人間学群学生を優先	10名以内	国際教育協力論（春AB水5,6)の初日	4月末	2単位	国際教育協力実習（CB11103）	有	約20万円（旅行保険料･航空券代･宿泊費･食費など）	はばたけ筑大生!（計10万円）	毎年開催	人間系　太田知彩 （ota.kazusa.gb@u.tsukuba.ac.jp）		
8	多文化共修活動	共通の課題解決のための日韓大学生多文化共修セミナー（梨花女子大学校）	韓国（ソウル）	英語･韓国語	日韓両国の大学生が関心のある課題ごとに分かれ、多様な視点から交流する機会を通し、両国に横たわる様々な「溝」や共通の課題を「対話」で共有し、それらを少しずつ埋めていくことで、相互理解を深めていく。	2026年7月末（８日間）	全学（教育学類生･人間学群学生･教職履修者を優先）	５名	４月中	４月末	1単位	8331173 多文化共修による課題解決実習(海外)	有	約15万円（旅行保険料･航空券代･宿泊費･食費など）	JASSO（計11万円）または、はばたけ筑大生!（計５万円）	不定期で実施	人間系･金 珓辰 （kim.hyunjin.gt@u.tsukuba.ac.jp）		
9	多文化共修活動	日韓の歴史・文化に関する共通理解から教育改革戦略を探究する	韓国（清州･ソウル特別市）	英語	日韓両国が抱える少子高齢化、人口減少、市場競争及び国際問題などを社会課題として捉え、以下の活動を通じて、歴史的・国際的な視野から解決に向けた教育改革戦略を提案する。 1)朝鮮半島の歴史と文化に関する現地学生とのフィールドワーク（博物館や南北境界線・非武装地帯、古宮など）、2)現地の学校における現地学生とのフィールドワーク、3)日韓両国の学生によるグループワークおよび合同ミーティングとプレゼンテーション	2026年11月16日～12月18日	教育学類･教育学学位プログラムに在籍する日本人学生	9名	R8.9.8	2026年9月8日 - 9月11日	1単位	多文化共修による課題解決実習（海外）：0A00323	有	後日連絡	はばたけ筑大生!	毎年開催	人間系　朝倉雅史 (asakura.masashi.gb@u.tsukuba.ac.jp)		
10	多文化共修活動	教育系大学院生による教育課題解決のための共修活動	中国（長春市）	英語、日本語、中国語	本活動では、「学校及び地域における教育課題」を取り上げる。 筑波大学教育学学位プログラムに在籍する日本人学生（修士課程、10名）が、東北師範大学教育学部を訪問し、同大学の大学院生（修士課程、10名）と、さまざまな活動的な体験を通して、学校及び地域の教育課題の解決策を考察するという共創活動に関与する。 具体的には、第一に、日中の学生が協力して教育課題を探し出す。筑波大学の教員及び東北師範大学の教員の講義とその振り返り、さらには、学校教育現場（小中高）や教育局及び教育委員会への訪問とそこでの各種観察及び意見交換・振り返りを通して、日本と中国に共通する学校及び地域における教育課題を理解する。第二に、実質的な共創活動として、日中の学生が教育課題の解決策について、ディスカッション及びプレゼンテーションを通して考察する。	事前学修日：9/7 渡航期間：2026/9/17～2026/9/27 事後学修日：未定	教育学学位プログラムに在籍する日本人学生	10名	R8.5.20	2026年５月11日-５月25日	1	0ATAY41　海外教育調査実習	有	10万円程度	JASSO	隔年開催	karaki@human.tsukuba.ac.jp		
11	多文化共修活動	ベトナム・フエの水郷集落における洪水共生デザイン研修	ベトナム（フエ）	英語	フエのラグーン地域に位置する水郷集落を対象に、気候変動と都市開発で高まる水害リスクに対し、洪水と共に暮らす地域の生態的叡智を手がかりに持続可能な地域デザインを学び、提案するPBL型短期研修である。筑波大学、フエ科学大学、早稲田大学の混成チームで課題設定、現地調査・オーラル・ヒストリー、合同ワークショップによるデザイン提案の作成、最終発表会での公開までを一連で実施し、英語発信力・異文化協働力・調査設計力・課題解決力を養う。□	2026年9月10日~9月30日	全学生（大学院生を含む）	5名	2026年4月16日(木)18:15-20:30@体育･芸術エリア6A棟308室	2026年4月16日(木)18:15-20:30@体育･芸術エリア6A棟308室	3単位	アート･デザインプロデュース演習1, 2, 3（YBX4812, YBX4822, YBX4832） 大学を開くデザインプロデュースA, B, C（0AS0303, 0AS0304, 0AS0305） 芸術(大学を開くアート･デザインプロデュース演習1, 2, 3)（4012042, 4012052, 4012082）	有	航空券代　約10万円 宿泊費等　約3万円 その他 合計15万円程度	JASSO（計8万円） ※成績評価係数2.30相当以上、TOEIC550点以上の条件に該当する学生に限る	毎年開催	芸術系助教　菅野圭祐 sugano.keisuke.gu@u.tsukuba.ac.jp		

No.	カテゴリー	プログラム名 （研修先機関名）	派遣先国・地域 （都市）	使用言語	プログラム内容	実施時期 （期間）	参加対象	募集人数	説明会 実施時期	募集時期	付与単位数	科目名（科目番号） ※単位付与がある場合	多文化共修認定の有無	学生負担の費用	支援金の種類（金額）	開催頻度	問い合わせ先 （メールアドレス）	URL	備考
12	多文化共修活動	ENSAG/UGA-UT Joint Design Workshop 2026 Tiny Architecture by Digital Design （École nationalesupé rieured'architecturede Grenoble /UniversitéGrenoble Alpes（グルノーブル・アルプ大学/グルノーブル国立建築大学））	フランス（グルノーブル）	英語	パヴィリオンと散策路のデザインを課題とし、デジタル・デザインからデジタル・ファブリケーションまでの一貫した、デジタル技術を基礎とする建築およびデザインの新しい制作方法を実践し修得する。制作物はイゼール河畔あるいは博物館へ設置され実用される。共同WSを実施するCiC協定校グルノーブル・アルプ大学はパラメトリック・デザインとデジタル・ファブリケーションにおいてグローバルに見て有数の実績を有する。建築を中心にデザインの幅広い分野から学生を受入れる。本授業で先端的知見を得ることで学生のデザイン能力の飛躍的向上が期待される。	2026年9月7日～9月19日（13日）。筑波大学生は7月9日から研修を実施する。	芸術専門学群建築デザイン領域学生等、デザイン学学位プログラム学生等	12名程度	4月末～5月初旬	4月末～5月初旬	3単位	0ATU202 プロジェクト演習A-II YBQ0352 建築デザイン演習B	有（申請中又は申請予定）	支援金額を越えた費用（はばたけDOJO支援、JASSO奨学金）	はばたけDOJOあるいはJASSOソーシャルインパクト（いずれも11万円見込）	毎年開催	芸術系事務室 デザイン学学位プログラム （art_design_adm@un.tsukuba.ac.jp）		募集人数を超過した場合選抜をおこなうことがあります。
13	多文化共修活動	art/design をつうじた日常生活遺産の活性化	台南（台湾）	英語	日常生活遺産を生活行為、記憶と人工物、自然の結びつきとして捉えながら、日常生活遺産のある文化的景観に着目し、景観を構成する具体的形態、質感、色彩に焦点を当て、フィールドワークをつうじてそれらの魅力と成り立ちを読み解きます。さらに、フィールドワークで得られた知見を踏まえてワークショップをおこない、日常生活遺産と文化的景観に活力を与える作品制作や展覧会をおこないます。	2026年8月9日～8月16日	学部レベル	8名程度	4月末～5月初旬	4月末～5月初旬	1単位	YBX4822 アート・デザインプロデュース演習2 4012052 大学を開くアート・デザインプロデュース演習2	有（申請中又は申請予定）	支援金額を越えた費用（はばたけDOJO支援、JASSO奨学金）	はばたけDOJO（5万円見込）あるいはJASSOソーシャルインパクト（9万円見込）	毎年開催	芸術系事務室 デザイン学学位プログラム （art_design_adm@un.tsukuba.ac.jp）		募集人数を超過した場合選抜をおこなうことがあります。アート・デザインプロデュース演習1, 3、大学を開くアート・デザインプロデュース演習1をあわせて履修することが望ましい。
14	多文化共修活動	Architectural Design Connecting City and Suburbs: Tokyo-Tsukuba 2026	日本/東京、前橋周辺、つくば周辺：筑波大学東京キャンパス、筑波キャンパス等	英語	東京の現代的課題として社会的孤立に着目し、その解消に資する人と人とのつながりを生む空間的仕組みを臨地調査から学ぶ。他方で、首都圏郊外の課題として放置された竹林に着目し実地でその現状を学ぶ。竹林を手入れし、そこから出る間伐材の竹を材料として人と人とのつながりを生む空間的仕組みを持つ仮設構造物を制作し、制作した竹の仮設構造物を東京の具体的敷地へ設置することで郊外の課題と東京の課題の同時の解消に貢献する。モラトゥワ大学（スリランカ）、スペイン、中国、チリの各大学から学生、教員が参加し、筑波大学をホストとして実施す	2026年7月13日～7月25日	学部レベル	18			1.0/1.0	YBQ0352/0ATU202　建築デザイン演習B／プロジェクトA-II	有				yamada.kiyota.fu@u.tsukuba.ac.jp		
15	多文化共修活動	In-between Studies	インドネシア（ジョグジャカルタ）	英語 インドネシア語	分断やヘイトが高まる現代の国際社会において、他者を見知らぬ存在としてではなく、身近な隣人に感じられる場や想像力が一層必要となる。このプロジェクトのテーマである「In-between Studies（あわいの学び）」は、他者の文化と自国の文化との間（あわい）に立ちながら、言語を越えたコミュニケーションを共に生みだすアートの可能性を模索していく。	2026年8月16日～8月31日	全学群、学類学生、全学位プログラムの学生	5名	R8.7.8	4月	-	8331173 多文化共修による課題解決実習（海外）A 0A00323 多文化共修による課題解決実習（海外）	有	支援金額を超えた費用	はばたけ！筑大生奨学金	毎年開催	芸術系　小野裕子准教授 （ono-y@geijutsu.tsukuba.ac.jp）		2026年度のみ実施
16	多文化共修活動	In-between Studies	日本・	日本語・英語・その他	2025年度多文化共修活動支援によって、芸術専門学群開講「現代美術論A」の非常勤講師で海外招へい教員の北澤潤先生を中心に活動をした。北澤先生が招待出品された森美術館開催の「六本木クロッシング展」にて、日本とイ ンドネシアをつなぐ北澤潤先生の作品の一部となる布に蝋染めをするアートワークショップを実施した。参加した芸術専門学群生、芸術系学位プログラム博士前期課程の大学院生、他学群の外国人学生達は、ワークショップによって鑑賞者とのコミュニティを形成できた。このプログラムを継続したく来年度の共修活動支援によってインドネシアでの活動を希望している。本学内で生まれた両国の繋がりは、今後展開する多文化共修活動の受け皿としても継続する必要がある。 本活動では、北澤潤先生が東京都港区にあるコミュニティスペース「SHIBAURA HOUSE」と実施するアートプログラムに参加する。港区にある各国の大使館と連携して展覧会等活動を行うこのスペースには、地域住民、海外からの移住者、各国大使館職員らが日々集う。この場所を拠点に日本人学生と外国人学生が参加者をつなぐワークショップを実践することで、互いのつながり	2026/10/10-10/18	修士レベル	10			1	8331163、0A00324　多文化共修による課題解決実習（国内）B	有				ono.yuko.gn@u.tsukuba.ac.jp		
17	多文化共修活動	ケニアの陸上競技の現場から学ぶスポーツと開発の課題	ケニア	英語	本プログラムは、学部生を対象に、ケニアにおける陸上競技を事例として、スポーツと開発をめぐる社会課題を現場から学ぶ多文化共修型フィールド実習である。 本実習では、陸上競技のトレーニング現場、学校、地域コミュニティ、スポーツ関連団体などを訪問し、国際競技を目指すためのトレーニングの実態を現場から学ぶとともに、スポーツ競技が若者や地域社会にどのような機会をもたらしているのか、また同時にどのような課題や葛藤を内包しているのかを、現地の人々との対話や観察を通じて理解する。	2027年1月25日～2月7日	全学群、学類学生、全学位プログラムの学生	10名	R9.1.14	未定	-	8331183 多文化共修による課題解決実習（海外）B	有	はばたけ！筑大生の奨学金を申請する予定だが、受給できない学生はJASSOにも申請する予定である。	はばたけ！筑大生奨学金 JASSO奨学金（未定）	毎年開催	体育芸術エリア支援室 多文化共修プログラム担当 tg.mccl@un.tsukuba.ac.jp		
18	多文化共修活動	ケニアのスポーツ文化とSDGsを学ぶためのフィールド実習	ケニア	英語	"本プログラムは、学部生を対象に、ケニアにおけるスポーツと身体文化を切り口として、異文化理解と社会課題への気づきを深める多文化共修型フィールド実習である。ケニアでは、植民地支配の歴史の中で近代スポーツが導入され、その後、地域社会や民族文化と結びつきながら独自のスポーツ文化が形成されてきた。こうしたスポーツは、今日では国民的誇りの象徴であると同時に、教育、健康、若者育成などの分野において重要な社会的役割を果たしている。 近年、ケニアではSDGsの達成を目指し、スポーツを通じて社会課題の解決を図る開発プログラムが数多く展開されている。一方で、外部から導入されるプログラムが、必ずしも地域の文化や人々の身体感覚と十分に結びついていないという課題も指摘されている。 本実習では、学生が現地の学校や地域コミュニティ、スポーツ関連団体を訪問し、スポーツ活動の観察や関係者との対話を通じて、①異なる文化的背景を持つケニアの人々がスポーツや身体活動をどのように捉えているのか、②スポーツが社会の中でどのような役割を果たしているのかを、教育や、陸上世界遺産、野生動物保全など多様な現場から学ぶ。"□	7/20-9/30	学部レベル	10			1	8331173　多文化共修による課題解決実習（国内）B	有				tian.xiaojie.fw@u.tsukuba.ac.jp （田暁潔）□		
19	多文化共修活動	第10回 感染症ワークショップ Workshop on Infection Diagnosis	ベトナム （ダナン市）	英語	ベトナムで実施する「Infection Diagnosis Workshop」において、現地社会人や大学生参加者らと共に実際の臨床検体や環境サンプルから各種病原体の同定、多剤耐性菌（ESBL等）の型別判定等を行い、また薬剤耐性というグローバル課題を生む現地特殊事情を学び解決策を議論する。 本ワークショップは、全学自由科目「国際パートナーシップ研修（東南アジア）」として実施している。	2026年9月上旬	公募対象：全学群、学類学生 非公募：フロンティア医科学学位プログラム・医学学位プログラム	8名	8月上旬	5月	2単位	国際パートナーシップ研修（東南アジア）	有	実質負担5万円程度の予定	はばたけ筑大生!	毎年開催	医学医療系 森川一也・教授・7882 morikawak@icloud.com	https://www.md.tsukuba.ac.jp/med-sciences/data/tjms/2025/Vol.21(5)-December.pdf	
20	多文化共修活動	Bordeaux・筑波デジタル農業合宿	日本・筑波大学	英語・日本語	"気候変動と高齢化は、日本とフランスの双方で農業に課題をもたらしています。 文化的に重要な伝統産業であるワイナリーなどは、特に大きな影響を受けています。本プロジェクトでは、両国それぞれの特性を踏まえつつ、伝統産業に対してコンピュータサイエンスの新しい技術がどのように支援を提供できるかを学生たちが調査します。 "□	2026-04-07 – 2026-06-11	学部レベル	7				TSSP	有				caranha@cs.tsukuba.ac.jp□		
21	多文化共修活動	日本語・日本文化国際研修Ⅲ（韓国実習）	韓国（ソウルほか）	韓国語・日本語	この国際研修では、日本語・日本文化学類で学修した知識や情報を韓国の大学の学生とのダイアローグを通して、実践的に運用し、なおかつ社会問題解決に至る道筋を共有することを狙いにしている。ここで扱う社会問題とは、具体的に歴史認識、ジェンダー・階級格差、少子化・高齢化、地域振興、AI化などを指す。これらを取り巻く課題は日韓両国において論議の対象となっている。それらは一国だけでは解決が困難であるにも関わらず、腹蔵なく言研を共有する場はそれほど多くない。本研修では韓国の訪問先５大学の日本語科の教員の協力を得て、共に学び、共に解決する主体性を獲得し、新たな問題認識に至る道筋を自ら切り開くPBL型学習をベースにしている。	2026年10月11日～10月18日	主に日本語・日本文化学類の学生（他学類の学生も参加可）	5名	4月下旬	5月	3単位	日本語・日本文化国際研修III（AE14E33）	有	約15万円	はばたけ筑大生!（計6万円）	毎年開催	日本語・日本文化学類長室 nichi2_office@un.tsukuba.ac.jp	https://www.japanese.tsukuba.ac.jp/training_overseas/	

No.	カテゴリー	プログラム名 （研修先機関名）	派遣先国・地域 （都市）	使用言語	プログラム内容	実施時期 （期間）	参加対象	募集人数	説明会 実施時期	募集時期	付与単位数	科目名（科目番号） ※単位付与がある場合	多文化共修認定の有無	学生負担の費用	支援金の種類（金額）	開催頻度	問い合わせ先 （メールアドレス）	URL	備考
22	多文化共修活動	多文化共修・企業課題解決プロジェクト	茨城県つくば市	日本語・英語	日本人学生と留学生が混成チームを組み、地域企業や自治体が直面する社会課題に対して解決策を提案する多文化共修型PBLである。茨城県やつくば市から提示される少子高齢化や人手不足、地域産業の競争力低下といった社会課題を背景に、事例企業である㈱カスミを対象として現地調査や社員ヒアリングを実施する。学生は、多文化的視点を生かしながら課題の本質を分析し、ビジネス戦略や組織・広報施策など具体的かつ実行可能な解決案を構築する。最終的には、関係者に向けたプレゼンテーションを行い、実社会と接続した課題解決力、異文化協働力、キャリア形成意識の向上を図る。□	令和8年7月2日（木）～7月4日（土）	全学群、学類学生	15	令和8年6月4日	令和8年5月29日	1	8331153　多文化共修による課題解決実習（国内）A	有	¥0			fukushima.misako.fp@u.tsukuba.ac.jp□	https://social-impact.projects.tsukuba.ac.jp/4693	
23	多文化共修活動	「海外語学研修ロシア語C」（アルファラビ・カザフ国立大学）	アルマトイ	英語・ロシア語	参加学生はロシア語を学習しながら、現地の博物館、歴史建築物、コミュニティセンター、文化関連施設をアルファラビ・カザフ国立大学の学生とともに課外活動として訪れ、社会課題についての理解を深めていく。最終日のワークショップで日本人学生とカザフ人学生混合の複数のグループに分かれ、それぞれの関心に応じて「日本とカザフスタンにおける環境問題」「日本とカザフスタンにおける言語意識」等のテーマに沿ったプレゼンテーションおよびディスカッションを実施し、課題解決に向けての主体的かつ協働的な取り組みを行う。□	2027年2月18日～2027年3月22日	学部レベル	15			3	8330426　海外語学研修ロシア語C	有				kajiyama.yuji.ft@u.tsukuba.ac.jp□		
24	多文化共修活動	Neuro-Nexus Challenge : Solving Social Issues through Integrated Neuroscience	つくば市	英語	メンタルヘルスの不調や、超高齢社会の進展に伴う認知・社会性の低下といった地球規模の解決困難な社会課題を取り上げ 、IBROスクールで実施される「睡眠」「認知」「社会脳」の3領域・計18講義で得た先端的な神経科学の知見を基盤に 、日本人学生と外国人学生が混成チームを編成して、3日間にわたるワークショップを通じて課題の構造化、専門知を融合させた具体的な解決策の策定、および英語による成果提案のセッションをグループ毎に行う 。□	9/27（日）～9月30日（水）	修士レベル:ニューロサイエンス学位プログラムの学生対象	25					有				kayamada@human.tsukuba.ac.jp		
25	多文化共修活動	筑波トランスパシフィックプログラム（中南米）短期研修	リマ、ボゴタ、グアダラハラ、サンティアゴ、サンパウロ（提携大学所在地のいずれか）	英語・日本語・スペイン語	"予測困難な国際情勢の変化が見込まれる中で、持続的な二国間関係の構築に関して、現地団体へのインタビューを実施し、課題点を抽出し、自らの専門性を活かした視点から問題提起、現地学生とのディスカッション、および提案を実施する。 課題の抽出：大学講師による国際関係や社会課題に関する講義を受講、グループ分け、ディスカッション、インタビューに向けた準備 インタビュー等：日本と関わりのある様々な団体を訪問し、講義いただき、その後両国の学生によるインタビューを実施する。日、英、スペイン語のうち使用可能な言語を使い、日ペルーの学生間で情報共有しながらすすめる。 グループワーク：集めた情報をもとに、学生同士でディスカッションする。 提案の発表：グループプレゼンテーションと総合討論"□	3月2日～3月12日（予定）	学部レベル	10	3月後半に参加者による報告会を実施、参加自由	10月以降告知	2	8070307　国際パートナーシップ研修（中南米）	有	40万円前後	はばたけ（15万円）	毎年開催予定	fujisawa.natsuho.gn@u.tsukuba.ac.jp	https://ssc.sec.tsukuba.ac.jp/ies-top/go-abroad-top/go-abroad-system/go-abroad-partnership/ttpp	
26	多文化共修活動	日本ケニア共同宇宙開発を通した多文化共修活動_JKUAT_INF_2026	ケニアJuja	英語・日本語	"国際紛争が絶え間ない状況下であるが、さまざまな利害が衝突する国際宇宙開発分野においては，自国のみを見つめるのではなく，考え方の異なる社会に身を置き，異なる教育・文化背景を持つ人々が協調することが期待されている。 本プログラムでは，宇宙開発工学分野において，直接交流による効果が期待できる相手国の学生と衛星やロケットなどのコンポーネントを共同開発するPBLを通して，国際協調イノベーションの創出に必要な工学的知見とコミュニケーション能力を涵養することを目指す．"□	7/1～7/24	学部レベル	7			2	FG16666　宇宙開発工学演習2026	有				kameda@kz.tsukuba.ac.jp		
28	多文化共修活動	日台共同宇宙開発を通した多文化共修活動_NCU_INF_2026	桃園	英語・日本語	本プログラムでは，宇宙開発工学分野において，直接交流による効果が期待できる相手国の学生とリモートセンシング実習や衛星環境試験といったPBLを通して，国際協調イノベーションの創出に必要な工学的知見とコミュニケーション能力を涵養することを目指す．□	7/14～8/6	学部レベル	10			2	FG16666　宇宙開発工学演習2026	有				kameda@kz.tsukuba.ac.jp		
29	多文化共修活動	日台共同宇宙開発を通した多文化共修活動_NCU_INJ_2026	つくば市	英語・日本語	本プログラムでは，宇宙開発工学分野において，直接交流による効果が期待できる相手国の学生と衛星通信用アンテナの製作と計測実習PBLを通して，国際協調イノベーションの創出に必要な工学的知見とコミュニケーション能力を涵養することを目指す．□	2027/3/5～3/22	学部レベル	9			2	FG16666　宇宙開発工学演習2026	有				kameda@kz.tsukuba.ac.jp		
30	多文化共修活動	日米共同宇宙開発を通した多文化共修活動_OSU_INF_2026	オハイオ州コロンバス市	英語・日本語	"国際紛争が絶え間ない状況下であるが、さまざまな利害が衝突する国際宇宙開発分野においては，自国のみを見つめるのではなく，考え方の異なる社会に身を置き，異なる教育・文化背景を持つ人々が協調することが期待されている。 　本プログラムでは，宇宙開発工学分野において，直接交流による効果が期待できる相手国の学生と衛星やロケットなどのコンポーネントを共同開発するPBLを通して，国際協調イノベーションの創出に必要な工学的知見とコミュニケーション能力を涵養することを目指す．"□	8/17～9/4	「宇宙開発工学演習2025」履修学生から選抜	8			2単位	FG16666　宇宙開発工学演習2026	有	10万円	JASSO（22万円）	その他（備考に記載）	kameda@kz.tsukuba.ac.jp		先方の受け入れ体制に基づいて調整
31	多文化共修活動	国際農業研修V 大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業多文化共修活動支援	チュニジア: チュニス、トズール、ドゥーズ、メドニン	英語・日本語・フランス語	半乾燥地の協定校及び企業等において、講義・体験実習・野外調査等を通じて農業の特色及び地域性などを学ぶ。地中海からサハラ砂漠に移動しながら生態系の変化を観察するとともに、砂漠化の影響を見学する。チュニジアで行われている乾燥・半乾燥地における農業について見学し、現地での学習と最終発表会での議論を通じて考察を深める。同時に、協定校の学生や教員、農場等の企業者・経営者との交流を通じ国際的な視野に立ったキャリア意識を醸成する。□	2027年1月18日～2027年2月1日	全学生 （大学院生を含まない）	6	2026/10/21	参加希望登録〆 2026年10月27日	2	EC41153　国際農業研修V	有	支援金を超えた費用 （航空券代、宿泊費、食費、その他）	はばたけ筑大生	その他（備考に記載）	川田　清和　助教		隔年開催
32	多文化共修活動	アグリブリッジ・イニシアティブ：環境微生物と植物病害虫を学ぶ日越PBL型共修プログラム	ベトナム ハノイ	英語・日本語	"　持続可能な農業の実現には、病害虫被害の抑制と環境負荷低減の両立が不可欠である。ベトナムを含む東南アジア地域では、気候変動に伴う病害虫発生の増加、農薬依存による環境・健康リスク、さらに収穫後の品質劣化や食品ロスが深刻な課題となっている。本活動では、これらの地域課題に対し、微生物の利活用、植物保護技術、鮮度保持技術など多面的な視点から解決策を検討する。 　参加学生は、日本人学生と外国人学生による混成チームを編成し、現地農業現場や提供サンプルを題材として課題を設定する。実験実習では、病原菌や害虫の同定、拮抗微生物や天敵の探索、収穫後品質保持技術の評価などを行い、得られた結果をもとに原因分析を進める。そのうえで、防除効果、環境負荷、導入コスト、地域への普及可能性などを総合的に議論し、実現可能な解決策を立案する。最終日には英語による成果発表会を行い、多文化環境下で課題解決力・協働力・発信力を養う。"□	202年2月28日-2027年3月6日	全学生 （大学院生を含まない）	6	2027年２月下旬	未定	1	8331453、0A00323 多文化共修による課題解決実習（海外)B、多文化共修による課題解決実習（海外）	有	支援金を超えた費用 （航空券代、宿泊費、食費、その他）	はばたけ筑大生		石賀　康博　助教 ishiga.yasuhiro.km@u.tsukuba.ac.jp□		
33	多文化共修活動	AIMS（Asian International Mobility for Students）プログラムの2026年度秋学期 R8 トランスアセアン・グローバルアジェンダ・ディベート演習（秋）	つくば市、首都圏	英語	AIMS（Asian International Mobility for Students）プログラムの2026年度秋学期受入学生と2026年度下半期派遣学生に必修科目として開講している「トランスアセアン・グローバルアジェンダ・ディベート演習（春）」において、東南アジア・日本における現代社会における地域課題の現状、政府・民間による解決事例について、フィールド実習（都内、附属坂戸）グループ討論、発表を行い、異文化理解、多言語理解、地域課題理解、キャリアデザインについての知見を深める。また、AIMSプログラム事務局であるSEAMEO RIHED（東南アジア教育大臣機構高等教育地域開発センター）からプログラムオフィサーを招聘し、学生のグループ発表、質疑応答に専門家として出席し、フィールド実習にも同行する。□	2026/10/7 - 2026/12/23	全学生 （大学院生を含まない）	29	########	未定	1	EZA0222　トランスアセアン・グローバルアジェンダ・ディベート演習"□	有				野村　名可男　准教授 nomura.nakao.fa@u.tsukuba.ac.jp□		

No.	カテゴリー	プログラム名 （研修先機関名）	派遣先国・地域 （都市）	使用言語	プログラム内容	実施時期 （期間）	参加対象	募集人数	説明会 実施時期	募集時期	付与単位数	科目名（科目番号） ※単位付与がある場合	多文化共修認定の有無	学生負担の費用	支援金の種類（金額）	開催頻度	問い合わせ先 （メールアドレス）	URL	備考
34	多文化共修活動	国際農業研修VI 台湾の亜熱帯・熱帯農業におけるCSAの研修	台中市、台湾の南部	英語・中国語	"社会課題として、台湾南部は農業生産が盛んな地域であるが、近年では気候変動に直面しており、熱帯果樹などの農作物の栽培や畜産物の生産に加え、少子化や農村の高齢化など、さまざまな課題が浮上している。そのために多種な対策が講じられている。本研修では、見学する研究施設や農業生産施設において、関係者から農作物の栽培・生産および関連する課題について詳細な説明・紹介が受け、学生が質問する機会も設けられている。研修後半には、学生は課題ごとにグループに分かれ、英語による研修成果発表会を実施する。発表会には中興大学の教員も同席し、学生の発表を評価する。最後に、各学生は研修成果をレポートにまとめ、提出する。 "□	2027年2月下旬～3月上旬	全学生 （大学院生を含まない）	15	2027年2月中旬	未定	2	EC41163　国際農業研修VI	有	支援金を超えた費用 （航空券代、宿泊費、食費、その他）	はばたけ筑大生	毎年開催	阿部　淳一　ピーター　助教 abe.junichi.p.gn@u.tsukuba.ac.jp		2023 年度に国立中興大学と筑波大学（生命環境学群と理工情報生命学術院） の学術交流の部局間協定書を締結 「国際農業研修 VI」(EC41163)を開設
35	多文化共修活動	日本と台湾におけるクライメート・スマート・アグリカルチャーについて学ぶ多文化共修	つくば市	英語	"取り上げる社会課題：日本の温帯農業の生物資源科学研究、農業技術のその現状と課題 PBL：関東の農業施設や生物資源科学の最先端研究施設等で、日本の温帯農業における最先端の生物資源科学研究、農業技術やその現状や課題などに関する講義、学生実験実習、フィールドワークを体験し、台湾の農業と比較検討したり、日本の農業の課題について昨年度国際農業研修で台湾を訪問した筑波大学生や本学の教員とディスカッションして、筑波大学での研修の成果を発表する。"□	2026/7/6～ 2026/7/12	全学生 （大学院生を含まない）	15					有			毎年開催	阿部　淳一　ピーター　助教 abe.junichi.p.gn@u.tsukuba.ac.jp		
36	多文化共修活動	国立台湾大学(NTU)との短期学生交流プログラム 1	台北市	英語	"取り上げる課題：SDGs、AI社会、世代間問題、インタネット上の不正行為（5月中に決定する） 国立台湾大学と筑波大学の学生による混成グループに分かれ、キックオフミーテイングで提示された大きいテーマから、各グループは取り組みたい課題を選択する。その後、グループ毎にオンラインでの会合を重ね、対策や解決案を検討し、最終的に全グループの前で発表を行う。発表後には、他のグループや教員からフィードバックを受ける。また、筑波大生には、発表内容などについて振り返るレポートを提出させ、その内容を評価し、成績をつける。"□	2026/9/11～ 2026/9/14	全学生 （大学院生を含まない）	20	2026年7月上旬	2026年5月下旬～2026年6月下旬	1	8331173　多文化共修による課題解決実習（海外）	有	研修に係る費用 （航空券代、宿泊費、食費、その他）		毎年開催	阿部　淳一　ピーター　助教 abe.junichi.p.gn@u.tsukuba.ac.jp		
37	多文化共修活動	国立台湾大学(NTU)との短期学生交流プログラム 2	つくば市	英語	"取り上げる課題：SDGs、AI社会、世代間問題、インタネット上の不正行為（10月に課題決定） 国立台湾大学と筑波大学の学生による混成グループに分かれ、キックオフミーテイングで提示された大きいテーマから、各グループは取り組みたい課題を選択する。その後、グループ毎にオンラインでの会合を重ね、対策や解決案を検討し、最終的に全グループの前で発表を行う。発表後には、他のグループや教員からフィードバックを受ける。また、筑波大生には、発表内容などについて振り返るレポートを提出させ、その内容を評価し、成績をつける。"□	2027/1月下旬（3日間）	全学生 （大学院生を含まない）	20	2026年10月上旬	2026年9月下旬～2026年10月下旬	1	8331163　多文化共修による課題解決実習（国内）	有			毎年開催	阿部　淳一　ピーター　助教 abe.junichi.p.gn@u.tsukuba.ac.jp		
38	多文化共修活動	負の世界遺産を伝える「言葉」「物語」の共創　2　（韓国・全州大学校との共修）	つくば（本学キャンパス、防災科研つくば本所、JAXA）、東京（第五福竜丸展示館）	韓国語・日本語・英語	"本活動は、令和７年多文化共修活動支援で行われた「負の世界遺産を伝える「言葉」「物語」の共創」（台湾・中山大学との共修）の継続・拡大活動である。社会課題：韓国と日本との、負の遺産も含めた両国関係についての学びを深め、全州大学校（韓国）の学生と筑波大学の学生が協働し、災害・震災・核実験をグローバルな視点で捉え、解決策を考案する。1946年から核実験が行われてきた太平洋核実験場、とりわけマーシャル諸島のビキニ環礁は、ユネスコにより負の世界遺産に登録されている。1954年の水爆実験の放射性降下物により日本の遠洋マグロ漁船第五福竜丸の乗組員たちが被曝している。本活動では、太平洋の核実験の問題を地球全体に影響を及ぼす暴力の問題として捉え、それを筑波大学と全州大学校の学生たちが過去ではなく、現在の問題として共に考える。PBL：日本人学生と韓国人学生による混成グループを編成し、社会課題に取り組む課題解決型学習（PBL）として実施する。 なお、本件はNo.47とは別の日本人学生を対象とした活動である。"□	2月11日（木）～2月17日（水）	学部レベル	12	2026年10月下旬	2026年10月下旬～11月上旬	2	比較文化国際研修	有	学生負担有り	はばたけ	二年に一度	yoshihara.yukari.fp@u.tsukuba.ac.jp		
39	多文化共修活動	高雄（台湾）近代化産業遺産群の保存と活用をめぐるPBL型国際共修プログラム―観光化を超えた労働記憶の継承と公正な地域再生―	高雄	中国語・英語・日本語	社会課題：国立中山大学の学生と筑波大学の学生が協働し、台湾と日本との過去・現在・未来にわたる関係につき省察を深め、解決策を考案する。PBL：日本人学生と台湾人学生による混成グループを編成し、社会課題に取り組む課題解決型学習（PBL）として実施する。□	2027年3月11日（木）～3月17日（水）	学部レベル	12	2026年10月下旬	2026年10月下旬～11月上旬	2	比較文化国際研修	有	学生負担有り	はばたけ	二年に一度	yoshihara.yukari.fp@u.tsukuba.ac.jp		
40	多文化共修活動	負の世界遺産を伝える「言葉」「物語」の共創　3　（トルコ（トゥルキエ）・チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学との共修）	つくば（本学キャンパス、防災科研つくば本所、JAXA）、東京（第五福竜丸展示館）	日本語・英語	"本活動の最大の特徴は、国際的に高評価をうけグローバルに流通している、日本発のマンガというメディアを通して、チャナッカレ大学と本学とのPBL活動を展開し、震災・災害・原子力に関する知の共有を行うところにある。本活動は、令和７年度多文化共修活動「トルコと日本の多文化共修活動」(No. 51)（トルコ（トゥルキエ）にて開催）の継続拡大事業である。昨年度の事業を通して築き上げられたチャナッカレ大学との協働関係に基礎を置き、昨年度に引き続き震災教育・災害表象を中心テーマとして講演・ワークショップを行う。令和７年多文化共修活動支援で行われた「負の世界遺産を伝える「言葉」「物語」の共創」（台湾・中山大学との共修）の継続・拡大活動として、本年度に申請される「負の世界遺産を伝える「言葉」「物語」の共創　２」　（韓国・全州大学校との共修）と連携しつつ、汚染・災害・原子力問題を取り上げ、チャナッカレ大学の学生と筑波大学の学生が協働し、災害をグローバルな視点で捉え、解決策を考案する。本活動では、汚染・災害・原子力問題を地球全体に影響を及ぼす暴力の問題として捉え、それを筑波大学とチャナッカレ大学の学生たちが過去ではなく、現在の問題として共に考える。PBL：トルコ（トゥルキエ）人学生と日本人学生による混成グループを編成し、社会課題に取り組む課題解決型学習（PBL）として実施する。	2月11日（木）～2月17日（水）	学部レベル	12	2026年12月上旬	2026年12月上旬～下旬	3	比較文化国際研修	有	学生負担有り		二年に一度	mihara.tetsuya.ga@u.tsukuba.ac.jp□		
41	多文化共修活動	日韓共同による地域芸術祭を通じた空間価値再編と 地域活性化に関する課題解決型学習	広島県広島市西区横川町および横川商店街周辺地域	英語・日本語	地方都市の商店街では，人口減少，消費行動の変化，大型商業施設への来訪者集中等により，にぎわいの維持や地域イメージの再構築が課題となっている。本活動では，広島市横川町における「横川まちの芸術祭」および商店街活性化の取組を対象に，地域芸術祭が都市部の商業空間，地域コミュニティ，来訪者の回遊行動にどのような影響を与えているのかを検討する。日韓学生合同チームによる課題解決型学習（PBL）として，現地観察，商店街関係者・住民・来訪者への聞き取り，まち歩き調査を実施し，商店街の魅力発信，多言語情報提供，来訪者回遊の促進，地域文化資源の活用に関する具体的提案を作成・発表する。□	7/26-7/30予定	学部レベル	12			2	AC62G23　文化地理学野外実習I	有				matsui.keisuke.gf@u.tsukuba.ac.jp		
42	多文化共修活動	グローバルヘルスリーダーシッププログラム　モンゴル国際看護研修	ウランバートル	英語・日本語	日本（メタボリックシンドローム）とモンゴル（後学的変化による高血圧・脳卒中の増加）という両国共通の社会課題である非感染性疾患（NCD）の予防を主題とし、筑波大学とモンゴル国立医学大学（MNUMS）の学生が混合チームで取り組む問題解決型学習（PBL）。学生は地域のコミュニティ健康監査（フードマーケット調査・保健センター訪問等）を通じて食環境と身体活動の障壁を分析し、文化的背景に即した「看護予防ツールキット」を協働で設計・開発する。	2026/9/17～ 2026/9/26	学部レベル	10	2026年4月23日（メール案内）	2026年4月23日～2026年5月7日	1	HC19017　国際ヘルスケア学術協定校研修II	有	約25万円（航空券代、宿泊費、食費、その他）	はばたけ筑大生!（計5万円）	毎年開催	taiga@md.tsukuba.ac.jp		

No.	カテゴリー	プログラム名 （研修先機関名）	派遣先国・地域 （都市）	使用言語	プログラム内容	実施時期 （期間）	参加対象	募集人数	説明会 実施時期	募集時期	付与単位数	科目名（科目番号） ※単位付与がある場合	多文化共修認定の有無	学生負担の費用	支援金の種類（金額）	開催頻度	問い合わせ先 （メールアドレス）	URL	備考
43	多文化共修活動	アルジェリアの大地に学ぶ持続可能な観光開発　シーズン2	バリ、アンナバ、タマンラセット、ブ・サアーダ、ビスクラ	英語・フラ	乾燥地帯の資源国アルジェリアの持続可能な観光開発を社会課題とする。モロッコ、チュニジアと比較して観光開発が遅れているアルジェリアにおいて、先駆者であるフランス人建築家ブイヨンの観光施設に実際に宿泊をしながらアクティブラーニングを実施する。シーズン２は、特に砂漠のアオシス地帯を中心に活動する。	2027/03/11- 2027/03/24	修士レベル	10			1	0A00323	有				matsub@sk.tsukuba.ac.jp		
44	多文化共修活動	建築と都市で学ぶシルクロードの東西交流	ヒヴァ、サマルカンド、アスタナ、アルマトイ等	英語・ロシ	中央アジアは、古来から西アジアと中国を結ぶシルクロードとして知られてきた。イランとの相互影響が色濃く見えるモスクやキャラバンサライ、天蓋型市場（スーク）といった建築と都市の特徴がある。一方、老朽化を巡ってJICAを含む国際機関が持続可能な開発を目指した世界遺産保全に動いてもいる。本活動では、対象参加国の主要都市を巡り、現地学生との学び合いに基づく建築と都市の共修活動に取り組む。	2026/8/22- 2026/9/7	修士レベル	7			1	0A00323	有				matsub@sk.tsukuba.ac.jp		
45	多文化共修活動	プレチニックの都市を読む――東欧三都市における共修型まちづくりPBL	ウィーン・プラハ・リュブリャナ	英語・ドイツ語・その他	スロヴェニアのヨジェ・プレチニックによる建築・都市計画群は、ウィーン、イタリア、プラハでの経験が結実した地中海と東欧の融合として評価され、2021年にユネスコ世界遺産に登録された。しかし登録後は観光需要の急増と短期賃貸拡大による住宅価格高騰・居住人口流出が進んでおり、歴史的空間を保存に留めず現代都市生活と共存させる方策が問われている。 本プロジェクトは、筑波大学とリュブリャナ大学の協定を基盤に、Sonja Ifko教授およびMiloš Kosec博士との共同ワークショップを核とした多文化共修型PBLとして構想される。2026年8月に約10日間、プレチニックゆかりのオーストリア・チェコ・スロヴェニアの複数都市を巡る宿泊滞在型の比較調査を実施し、歴史的建築資源と現代都市機能の統合のあり方を現地調査・ヒアリング・行政資料収集を通じて分析する。リュブリャナでのワークショップでは日本人参加者と現地専門家・学生が混合チームを組み、「歴史的市街地における持続可能なまちづくり」をテーマに	2026/08/06- 2026/08-15	修士レベル	7			1	0A00323	有				matsub@sk.tsukuba.ac.jp		
46	多文化共修活動	タイ東北部の教育・地域課題を踏まえた持続可能な教育政策提案のための多文化共修活動	バンコク、コンケン	英語・日本語・その他	共修テーマは、「Educational Policy Proposal for Sustainable and Inclusive Education in Japan and Thailand」とする。本活動では、タイ東北部、すなわちイサーン地域における教育機会の不均等、地域格差、多文化・多言語状況、地域文化の継承、若者の進学・移動等の社会課題について、コンケン大学の学生との協働的な探究を通して理解を深めることを目的とする。バンコクでの文化施設見学を通じて、タイの国家形成、仏教文化、都市化及び文化的多様性に関する基礎理解を形成したうえで、コンケン大学学生との混成グループによる課題設定、学校・地域施設等でのフィールドワーク、教育政策提案の共同作成・英語発表を行う。最終的には、日本とタイの比較を踏まえ、持続可能で包摂的な教育の実現に資する教育政策提案をまとめる。	事前学修日： 8/4, 8/31 渡航期間： 2026/9/18～ 2026/9/24 事後学修日： 10/7	修士レベル	6	6月18日	2026年6月18日	1	0A00323 多文化共修による課題解決実習（海外）	有	「はばたけ！筑大生」の多文化共修活動参加支援（東南アジア10万円）を受け、実質約15万円（旅費＋宿泊費）＋滞在費で6日間の共修活動に参加	はばたけ！筑大生		youhirai@human.tsukuba.ac.jp		
47	多文化共修活動	文化的差異を越境する教育のための日独多文化共修活動	アウクスブルク、ミュンヘン	英語・日本語・ドイツ語	歴史認識や移民の統合といった社会的課題を捉えるドイツで多文化共修活動を行う。具体的には、訪問先のアウクスブルク大学で講義とゼミナールに参加するほか、現地の学校(1～2校、調整中)の調査、そして ダッハウ強制収容所でのフィールド調査を現地の学生と共同で行う。また訪問中の1日はランチセッションとして学期生が日本の教育やその課題について英語でプレゼンテーションを行い現地の学生とディスカッションする。上記の取り組みを遂行するために10月中に1日事前学習を行い、また11月中に事後学習と振り返りを行う。	2026年10月18日～2026年10月28日	学部レベル 修士レベル	6			1	0A00323 もしくは 8331183	有	後日確認	はばたけ！		tanaka.rei.fu@u.tsukuba.ac.jp		
48	多文化共修活動	Multicultural Co-Design Workshop for Regional Revitalization	石岡市	英語・日本語	本活動では、石岡市における地域再生をテーマとして、日本、イタリア、台湾の学生および教員による多文化共修型ワークショップを実施する。地域企業であるサザコーヒーと連携し、地域資源や地域文化を活かしたプロダクトデザインの提案を通じて、地域課題の解決に取り組む。 活動では、日本人学生と外国人学生による国際混成チームを構成し、石岡市の地域資源、観光、地域文化、地域活性化に関する現状分析を行う。さらに、フィールドワークや地域関係者との交流を通じて課題を抽出し、多文化的視点から地域社会における課題解決案を検討する。 また、イタリアのデザイン教育や台湾の地域デザイン事例を踏まえながら、各国の文化的背景や生活様式の違いを比較し、国際的視点を取り入れたプロダクトデザイン提案を行う。最終的には、各グループが提案内容を発表し、地域再生に向けた実践的なデザイン提案として共有する。 本活動を通じて、多文化協働による課題解決型学習（PBL）を実践し、異文化理解、多言語コミュニケーション能力、地域課題に対する理解、および国際的なデザイン思考の育成を目指す。	2026/11/30～ 2026/12/08	修士レベル	18			1	0ATU501　海外研修I	有				bao.suomiya.ka@u.tsukuba.ac.jp		
49	多文化共修活動	Summer Tourism School in Kazakhstan! KNUとの短期ツーリズムプログラム	Almaty	英語・日本語	取り上げる課題：オーバーツーリズムの解決方法 目的：持続可能な観光開発能力を育成し、フィールドベースの研究における実践的なスキルを強化する。 形式：講義、実習、フィールドワーク、現地調査を行い、学生はツーリズムに関する問題意識し、解決方案を発表する。	2026/8/20～ 2026/8/28　（日程調整中）	学部レベル	20			1	8331173 / A00323　多文化共修による課題解決実習（海外）A / 多文化共修による課題解決実習（海外）	有				liu.soraya.fw@u.tsukuba.ac.jp		
50	多文化共修活動	伝統集落の生態的叡智に学ぶ洪水共生：気候変動適応に向けた環境デザインと地域マネジメントの日越学際的教育スタジオ	フエ	英語・日本語・その他	フエのラグーン地域に位置する水郷集落を対象に、気候変動と都市開発で高まる水害リスクに対し、洪水と共に暮らす地域の生態的叡智を手がかりに持続可能な地域デザインを学び、提案するPBL型短期研修である。筑波大学、フエ科学大学、早稲田大学の混成チームで課題設定、現地調査・オーラル・ヒストリー、合同ワークショップによるデザイン提案の作成、最終発表会での公開までを一連で実施し、英語発信力・異文化協働力・調査設計力・課題解決力を養う。	2027年3月14日～3月23日	学部レベル	6			1.0、1.0	YBX4832, 4012092	有				sugano.keisuke.gu@u.tsukuba.ac.jp		
51	多文化共修活動	海外医療視察研修	アルマトイ市、アスタナ市	英語・日本語・ロシア語	取り上げる社会課題 ・医療制度・政策の国際比較とヘルスガバナンスの多様性 ・文化的・宗教的背景が医療に及ぼす影響 ・都市と地方の医療格差および医療資源の地域間偏在 ・医療現場における男女共同参画とワークライフバランス ・災害・感染症パンデミックにおける医療脆弱性と国際協調の必要性 PBLの具体的内容 ①日本及びカザフスタンの現状と課題の抽出（プレゼンテーション作成） ②現地での発表と討議、現地でのフィールドワーク ③課題解決のためのグループワーク（現地学生との協働） ④帰国後の発表	2027年3月8日（月）～2027年3月17日（水）	学部レベル	8	11月上旬	11月上旬	1	HB21151 HE41170	有	30万程度（国際航空券、現地交通費、宿泊費、食費他）為替、国際情勢等により変動	はばたけ！筑大生	毎年1回	kobayashi@md.tsukuba.ac.jp sono.fumoto.ge@u.tsukuba.ac.jp		
52	多文化共修活動	デザイン思考とマンガ創作で課題を解決するUT-E-JUSTサマープログラム	アレキサンドリア、カイロ	英語	エジプトにおける都市化の急速な進行のひずみとして起こる環境問題、社会問題を対象とする。PBLは1)インプットパート、2)ワークショップパート、3)アウトプットパートの3つのパートからなり、パートナー校のエジプト・日本科学技術大学(E-JUST)の学生とのグループ単位で行う)。 インプットパートは、事前学習および渡航期間において、エジプトの概要、カイロ、アレキサンドリアの大都市圏で起こっている課題およびその解決のための企業・自治体とうによる取組、課題の分析および解決法策定の基礎となるDPSIRモデル、問題ツリー/目的ツリー、デザイン思考、マンガストーリー創作法を講義、現地訪問によるフィールドワーク形式で学ぶ。 　ワークショップパートはグループごとに取り組む社会・環境課題を設定し、課題分析・解決策の策定を行い、当該課題がステークホルダー個人レベルの生活にどのようなインパクトを与えるかを想像・理解するためにステークホルダー個人を主人公としたマンガストーリーを作成する。 アウトプットパートは渡航中において課題の分析・策定法、マンガストーリーを発表すると共に、事後学習においてプログラム参加に上位学生グループ（4～5グループ）を選抜し、エジプト国内で開催されるデザイン思考ワークショップにて発表する。	2026.8.31～ 2026.9.9	学部レベル	12			1	8331173	有				morio.takahiro.fu@u.tsukuba.ac.jp□		
53	多文化共修活動	DOJO in India:Appropriate Technology and Society　Batch 2 (Fall-2026)	グワハティ	英語・日本語	この科目では、武蔵大学と学習院大学の学生グループが、インドのグワハティ市（IITグワハティキャンパスがあるアッサム州の農村地域コミュニティに深く入り込み、特に地域の絹産業や食品産業に焦点を当てながら、地域に大きな影響を与える開発の機会を特定します。現地調査や住民への直接インタビューを通じて、学生チームは重要な課題を特定した上で、本格的なデザイン思考ワークショップへと移行します。そこで、地域の生活の質を向上させるための技術的戦略を構想し、IITグワハティのRuTAG施設にて機能モデルの迅速なプロトタイピングを行います。これらのプロトタイプはフィードバックループを経て、学生たちは地域社会に解決策を提示し、「Campus in Campus」年次総会と同時開催されるデモデーで発表を行います。また、併設されるミニカンファレンスではインドの産業界のリーダーやステークホルダーに向けて発表を行い、実社会での導入可能性を測ります。最後に、各チームはデザインに対するフィードバックを反映させ、包括的な最終報告書を作成するとともに、ターゲットを絞ったPR・コミュニケーション戦略を盛り込んだ	2026/11/7～ 2026/11/15	学部レベル	20			3.0/1.0/1	0ATGE64 / 8331183 / 0A00323　適正技術教育/ 多文化共修による課題解決実習（海外）B / 多文化共修による課題解決実習（海外）	有				kirie@md.tsukuba.ac.jp		

No.	カテゴリー	プログラム名（研修先機関名）	派遣先国・地域（都市）	使用言語	プログラム内容	実施時期（期間）	参加対象	募集人数	説明会実施時期	募集時期	付与単位数	科目名（科目番号）※単位付与がある場合	多文化共修認定の有無	学生負担の費用	支援金の種類（金額）	開催頻度	問い合わせ先（メールアドレス）	URL	備考
54	多文化共修活動	GASSHUKU with IITG - Appropriate Technology and Society: Prototyping Challenge!	つくば	英語・日本語・その他	ヒューマンバイオロジー学位プログラム の「Appropriate Technology 適正技術」の授業で学んだ原則を基に、参加者は実践的なフィールド活動を通じて、大学周辺の差し迫った社会問題や現在の地域活動について探求します。地元のステークホルダーとの直接的な対話や共感インタビューを通じて、学生たちは現実社会における重要な知見を得ることになります。その後、チームは「Design for Extreme Affordability（極限の低コスト化を追求したデザイン）」という枠組みに基づき、ダイナミックなブレインストーミングと迅速なプロトタイピングの段階へと移行し、地域の生活の質向上を目的とした、誰もが利用しやすい技術コンセプトを考案します。プログラムの締めくくりとして、魅力的な「テクノロジースプラッシュ」プレゼンテーションが行われます。そこでは、学生たちが選んだ社会課題の概要を説明し、創造的なデザインプロセスを詳述した上で、ライブでの技術デモンストレーションを通じて解決策を披露します。	2026/12/6～2026/12/13	学部レベル	30			1	8331163 / 0A00324　多文化共修による課題解決実習（国内）B / 多文化共修による課題解決実習（国内）	有				kirie@md.tsukuba.ac.jp		
55	多文化共修活動	黒潮が繋ぐ日本と台湾：UT-NCKU Kuroshio Program in Taiwan	東アジア	英語	本プログラムは、黒潮を共有する日本と台湾における海洋生態圏の保全、持続的な水産資源の活用にかかる課題を取りあげると共に、海洋文化圏に関する理解を深めることを目的とする。うち、本プログラムは台湾におけるフィールドワーク・ワークショップを実施するものである。国立成功大学（NCKU）をパートナーとして本プログラムの企画・運営を行う。 事前学習においては、台湾における海洋生態・文化圏の概要並びに多文化共修・PBLに必要なジョハリの窓・問題ツリー/目的ツリー・デザイン思考の基礎を学ぶ。 本プログラムは渡航中の全日程NCKUの学生と本学学生がグループを編成し、グループ単位で活動する。海洋生態圏に関連するNCKU鯨類保存教育センターおよび動物センター、国立自然科学博物館、国立海洋生物館、海洋文化圏に関する遺構・施設においてワークショップを行い、台湾南部の海洋生態圏・文化圏の歴史、概要、課題を理解する。次いでNCKUにおいて、現地ワークショップの成果を基にグループ毎に課題の抽出・分析・解決法の策定を行う。さらに、当該課題がステークホルダー個人レベルの生活にどのようなインパクトを与えるかを想像・理解するためにステークホルダー個人を主人公としたマンガストーリーを作成する。 成果発表は渡航中において課題の分析・策定法、マンガストーリーを発表すると共に、事後学	2026.7.20～2026.7.24 2027.2.1～2027.2.5	学部レベル	15			3.0/1.0	VB20013(BPGI学生)/8331173あるいは8331183（その他の学生）　Practical Training on Global Issues A-I(BPGI学生のみ、単位取得要件のひとつに設定)/多文化共修による課題解決実習(海外)AあるいはB（その他の学生、実施時期による）	有				morio.takahiro.fu@u.tsukuba.ac.jp		
56	多文化共修活動	黒潮が繋ぐ日本と台湾：UT-NCKU Kuroshio Program in Japan	日本	英語	本プログラムは、黒潮を共有する日本と台湾における海洋生態圏の保全、持続的な水産資源の活用にかかる課題を取りあげると共に、海洋文化圏に関する理解を深めることを目的とする。うち、本プログラムは日本におけるフィールドワーク・ワークショップを実施するものである。 国立成功大学をパートナーとして本プログラムの企画・運営を行う。 日本においては、黒潮と親潮の潮目における海洋生態圏とそこにおける生業の歴史、東日本大震災と原子力災害が与えたインパクトに特に着目し、関連施設におけるフィールドワークおよびフィールドワークに基づく課題発見・分析・解決法の策定にかかるワークショップを行う。さらに、当該課題がステークホルダー個人レベルの生活にどのようなインパクトを与えるかを想像・理解するためにステークホルダー個人を主人公としたマンガストーリーを作成する。 成果発表はNCKUの学生の日本での活動最終日において課題の分析・策定法、マンガストーリーを発表すると共に、事後学習においてプログラム参加による学び・気づき、キャリアデザインにどのように活かすかを発表する。	2026.7.12～2026.7.17	学部レベル	14			3.0/1.0	VB20013(BPGI学生)/8331153(その他の学生) Practical Training on Global Issues A-I(BPGI学生のみ、単位取得要件のひとつに設定)/多文化共修による課題解決実習(国内)A	有				morio.takahiro.fu@u.tsukuba.ac.jp		
57	多文化共修活動	持続可能な未来に向けたストーリー共同創作	茨城県、東京都	英語・日本語	この多文化共修では、参加者が持続可能な未来の実現に関わる日本とコスタリカの共通の課題について考察し、ストーリーの共同創作を通じて、持続可能な未来の共通ビジョンを構築する。具体的には、筑波大学とコスタリカ大学の学生がディスカッション、博物館などへの訪問、企業や自治体との交流を通じて、持続可能な未来の実現に向けて乗り越えるべき課題を明らかにするとともに、ストーリーの形（短編小説、イラスト、マンガなど）で解決策を提案する学習過程を辿	2027/01/19～2027/01/29（11日間）	学部レベル	10			1	8331163　多文化共修による課題解決実習（国内）B	有				mena.aaron.gb@u.tsukuba.ac.jp		
58	多文化共修活動	日本・ポーランド多文化共修PBL：社会的にヴァルナブルな子どもと家族を包摂する教育・心理的支援の探求	クラコフ	英語・日本語	日本・ポーランドの両国において移民・難民（特にポーランドにおけるウクライナ避難民など）や、貧困、親の依存症などにより心理的トラウマを抱える子どもたちは、ことばの壁や心理的バリアによりSOSを出しにくいことが大きな社会的な課題である。本PBLでは、筑波大学とHumanitas University, Pontifical University of John Paul IIの学生たちは、学校や地域社会が、ヴァルナブルな背景を持つ家庭と信頼関係を築き、子どもをエンパワーするためのアクションプランを考案することを目的とする。このPBLは３段階からなる。第１段階：事前学習を通して、両国の教育制度・政策、教育改革の動向、現代社会の諸課題について学ぶ。現地の小中学校や、ヴァルナブルな子どもたちへの学習支援を行うフリースクール、NGOを訪問しし、フィールドワークを実施する（関係者へのインタビューなど）。第２段階：フィールドワークで得た知見をもとに、日・ポの学生から成る混合チームで、課題解決のためのアクションプランを考案する。第３段階：アクションプランのプレゼンテーションを行うとともに、全体ディスカッション	2026年9月17日～9月23日	学部レベル	6			2	CB25043　比較教育文化論実習	有				kuanysh26@human.tsukuba.ac.jp		
59	多文化共修活動	SEAMEO SEA-teacher project (outbound)	ヌエバエシア州ムニョス市、西ジャワ州バンドン市、コンケン県ムアン市	英語	SEAMEO（東南アジア教育大臣機構）では東南アジア地域における教員養成課程の質統一、教育人材の流動活性化を目的として、国境を越えて、初中等教育レベルでの教育実習を教員養成課程にある大学生に提供する活動（SEA-Teacherプロジェクトhttps://seateacher.seameo.org/）が実施されている。本事業ではフィリピン、インドネシア、タイの本学協定校の中で、教員養成課程で顕著な成果を上げている大学（セントラルルソン州立大学／フィリピン、インドネシア教育大学／インドネシア、コンケン大学／タイ）の協力の下、将来教員を目指す学生に海外での教育実習をSEA-Teacherパイロットプロジェクトとして実施する。	2027/2/1 - 2027/2/28	学部レベル	6			1	EZA1020　グローバル課題インターンシップ	有				nomura.nakao.fa@u.tsukuba.ac.jp		
60	多文化共修活動	多文化共修 in ボツワナ　～アフリカにおける日本留学促進～	ハボローネ、ボツワナ	英語	「日本留学促進のための海外ネットワーク機能強化事業」の活動の一環として、9/20-9/22にボツワナ、ハボローネにおいて日本留学フェアが開催される。このイベントは、ボツワナ大学、ボツワナ国際科学技術大学の協力のもとに現地の高校生、大学生に日本留学を紹介する目的で開催されるが、大学の教育プログラムだけではなく日本での学生生活、日本文化、大学における課外活動の紹介も予定されている。コーディネータである秋田大学との協議により、本学学生とボツワナ大学、ボツワナ国際科学技術大学の学生でボツワナの高校生、大学生に向けた情報発信について企画、フェアでの実施、フェア修了後の振り返り、を実施する。	2026/9/18 - 2026/9/26	学部レベル	10			1	EZA1020　グローバル課題インターンシップ	有				nomura.nakao.fa@u.tsukuba.ac.jp		
61	多文化共修活動	多文化共修 in フィリピン ～Dunongプロジェクト with DepEd・UPLB～	ラグナ州ロスバニョス、フィリピン	英語	Dunongプロジェクトは、DepEd（Department of Education, フィリピン教育省）と本学協定校であるUPLB（University of the Philippines Los Baños, フィリピン大学ロスバニョス校）が、Leaning Povertyに直面している子供たちを救済するために実施している事業である。DunongプロジェクトではUPLBの所在地であるラグナ州の小中学校の児童・生徒を対象として、UPLBの学生ボランティアが様々な教育支援活動を行っている。Dunongプログラムの概要：https://www.youtube.com/watch?v=BpNR-m6VMYI	2027/3/2 - 2027/3/12	学部レベル	20			1	EZA1020　グローバル課題インターンシップ	有				nomura.nakao.fa@u.tsukuba.ac.jp		
62	多文化共修活動	ASEAN UC Summer School in Indonesia (IPB University): Preserving Biodiversity for Food Security	Bogor	英語・日本語・その他	This multicultural co-learning project brings together students from the University of Tsukuba and members of the University Consortium (UC) of SEAMEO-SEARCA for hands-on training in environmental assessment. The program will tackle ecological realities of Bogor, Indonesia, a region integral to the Cisadane and Ciliwung watershed systems. Unchecked deforestation and poor land management practices in the area have accelerated soil erosion, increased flood risk, and degraded water quality, placing significant pressure on both ecosystems and local livelihoods. Working in culturally mixed teams, students will examine the challenges faced by smallholder farmers in Bogor, many of whom operate with limited landholdings and constrained access to technology, capital, and markets which makes them particularly vulnerable to environmental degradation. Students will apply environmental impact analysis methods, investigate sustainable agricultural practices, and critically evaluate land and water management strategies relevant to the local context. At the conclusion of the program, student teams will present their findings and propose actionable strategies aimed at supporting both	2026/9/6～2026/9/20	修士レベル	23	2026年9月1日	2026年6月末	1	8331173 / A00323　多文化共修による課題解決実習（海外）A / 多文化共修による課題解決実習（海外）	有	支援金を超えた費用（航空券代、宿泊費、食費、その他）	はばたけ筑大生		ゲオンゾン レスター カンケ助教 geonzon.lester.gn@u.tsukuba.ac.jp		天災のため中止

No.	カテゴリー	プログラム名 （研修先機関名）	派遣先国・地域 （都市）	使用言語	プログラム内容	実施時期 （期間）	参加対象	募集人数	説明会 実施時期	募集時期	付与単位数	科目名（科目番号） ※単位付与がある場合	多文化共修認定の有無	学生負担の費用	支援金の種類（金額）	開催頻度	問い合わせ先 （メールアドレス）	URL	備考
63	多文化共修活動	日韓みらいファクトリーフォーラム 2026 in 東京	東京	韓国語・英	本授業では、「少子高齢化という課題を抱えている社会において、私たちのアイデアで未来社会をデザインしてみよう」をテーマに、多文化・多分野の学生による課題解決型学習（PBL）を実施します。授業では、人口減少や地域コミュニティの衰退、多文化共生、地方創生、観光客誘致、オーバーツーリズム、AIによる社会変化など、日本および世界が直面する社会課題を取り上げます。 学生は多様なバックグラウンドを持つメンバーとチームを組み、対話・ディスカッション・フィールドワーク・共創授業を通じて、社会課題を分析します。その上で、「人とコミュニティ」「地域」「観光」「テクノロジー」「教育」「福祉」などの観点から、持続可能な未来社	令和8年8月24日（月）ー28日（金）	学部レベル	30	実施なし	令和 8 年 5 月 18 日（月）09:00 ～6 月 12 日（金）23:59	1	8331153/0A00324　多文化共修による課題解決実習（国内）A	有	2万円	該当なし	毎年	social.impact.staff@un.tsukuba.ac.jp	https://miraefactory.jp/2026tokyo	
64	多文化共修活動	大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業多文化共修活動支援	グルノーブル・アルプ大学（UGA）	英語・フラ	グルノーブル・アルプ大学（UGA）の学生ととも、変化するアルプスの環境（気候変動や自然災害）に関する諸課題について、都市から高山、氷河まで多様なフィールドでの観察、調査、議論を行い、課題解決に挑戦する。 主な見学地・活動（予定） バスティーユ要塞：都市開発と地形の関係を観察 ラウタレ植物園（標高約2,000m）：高地生態系・高山植物の調査 シャモニー（モンブラン麓）：氷河後退の観察・気候変動の影響分析 地質横断調査：地形・地質の観察と地図作成 生態観察：高山植物・動物の観察	6/29～7/6	学部レベル～大学院レベル	12	2026/6/12（金）11:30-12:30 Guidance Session for the DOJO Activity in UGA@本部棟Annex1F Meeting room 3	2026/4/23～2026/5/8	1.0, 1.0, 1.0	①8331173 ②0A00323 ③0ANE035　①多文化共修による課題解決実習(海外)A ②多文化共修による課題解決実習(海外) ③Advanced Lecture in Mountain Studies	有	合計: 173,228円 内訳： フライト代: 294,125円 - 150,000円(はばたけ！筑波大生)= 144,125円 宿泊費: 29,103円	はばたけ！筑波大生		hirota.mitsuru.fw@u.tsukuba.ac.jp	https://social-impact.projects.tsukuba.ac.jp/post_en/4445	
65	多文化共修活動	持続環境科学アプローチによる地球規模課題解決への挑戦	クアラルンプール	英語	マレーシア工科大学とのジョイントディグリープログラムである国際連携持続環境科学専攻の学生自身の研究提案・研究発表会（合同セミナー、話題提供を兼ねる、国際シンポジウムとの併催を予定）を聞き、解決するべき課題を抽出する。課題解決に対して提案されたアプローチが最適なものであるかを討論すると共に、課題に関連する事業に取り組む協力企業の現場を視察し、見識を深める。その後、グループディスカッションでより良い解決策を提示することを目指す。参加者は筑波大学（マレーシア校を含む）・マレーシア工科大学・マラヤ大学・マレーシアプトラ	2027年2月28日～2027年3月5日	修士レベル	15			1.0, 1.0,	0AQT007、8331183、0A00323 合同セミナー、多文化共修による課題解決実習（海外）B、多文化共修による課題解決実習（海外）	有				maeda.yoshiaki.ff@u.tsukuba.ac.jp		
66	多文化共修活動	持続可能な農業と食料安全保障をテーマとした多文化共修PBL	つくば市、筑波大学、農研機構、JIRCAS	英語・日本	本活動は、筑波大学とマレーシアプトラ大学（University of Putra Malaysia：UPM）農学部との国際連携に基づき、気候変動、食料安全保障、持続可能な農業システムの構築といった地球規模の社会課題を対象として、多文化・多分野協働による課題解決型学習（Project / Problem-Based Learning：PBL）を実践する多文化共修活動である。 UPM農学部より大学院生約20名および教員2名を筑波大学に招へいし、筑波大学の学生・教員とともに日馬混成チームを編成する。参加学生は、気候変動が農業や食料供給に及ぼす影響、アジア地域における食料安全保障、研究成果の社会実装といった共通課題を出発点として、専門分野や研究文化の異なる視点から課題を多角的に分析する。 学内では未来社会デザイン棟のプレゼンテーションスペースなどを国際シンポジウムを開催し、筑波大学、UPM、農研機構、JIRCASの研究者および日馬双方の学生代表が講演・発表を行い、各国・各機関における社会課題の位置づけや研究アプローチの違いを共有する。これにより、PBLにおける共通の課題設定基盤を形成する。 さらに、農研機構およびJIRCAS、筑波大学のいくつかの研究室を訪問し、研究現場の視察やWorkshopを通じて、①社会課題の具体化、②研究・政策・社会状況の比較分析、③国際連携による課題解決に向けた提案作成に日馬合同グループで取り組む。活動の後半では成果発表を行い、多言語・多文化環境下での協働的問題解決能力の向上を図る。 本活動を通じて学生は、地球規模社会課題への理解を深めるとともに、自身の専門性の国際的意	2026年10月18日～2026年10月30日	修士レベル	20			1	0A00324　多文化共修による課題解決実習（国内）	有				tsujimura.maki.gm@u.tsukuba.ac.jp		
67	多文化共修活動	茨城県における外国人留学生キャリア支援・外国人材活用に関する多文化共修	つくば市、水戸市	英語	本事業では、外国人留学生のキャリア形成、就職支援を対象課題とし、本学の日本人学生、外国人学生が、留学生就職支援専門家、県内就職し活躍している留学生、留学生を採用している民間企業関係者、からの講義により現状を把握し、今後増加することが想定される外国人留学生の就職に支援に対して今後実施すべきこと、大学生として今できることについて議論し、解決案を提案する。リソースパーソンとして、茨城県内で2019年から幅広く留学生就職支援活動を行っている株式会社LEIDEAS代表、本学卒業生から県内就職している旧外国人留学生、留学生採用経験のある県内民間企業関係者を招聘する。LEIDEASは茨城大学、常磐大学と留学生就職支援で連携があり、同大学からも日本人学生、外国人学生5名ずつ参加する。	2026/11/14 - 2026/11/15	学部レベル	20			1	EZA1020　グローバル課題インターンシップ	有				nomura.nakao.fa@u.tsukuba.ac.jp		
68	多文化共修活動	後期中等教育の実践と改善方策についての多文化共修活動	茨城県下妻市（茨城県立　下妻第一高等学校）	英語・日本語	子どもたちが将来、社会の一員として自立し活躍していくためには、後期中等教育の役割と構造を見直し、より効果的な学びの仕組みを再設計することが国際的な重要課題となっている。公教育のなかでも子どもが社会的な自立を果たして社会に出て行く前の後期中等教育（高校教育）の在り方を再構築するという国際的な課題を理解し、改善方策を検討する。 　そのために、日本の高等学校でのフィールドワークと授業参画を通じて、多様な国の中等教育制度と日本の制度・実践を比較検討 する。そこで、日本人学生と外国人学生がともに行う体験に基づいて、各自が自国の後期中等教育の制度と実際をふり返る。その振り返りに基づいて協働討議を行い、各国の後期中等教育の改善方策を議論し、提案し合うプレゼンテーションを行う。特に、日本の高校での授業参加やフィールドワークを行う茨城県立下妻第一高等学校では、英語の授業に参加し、高校生と交流する。日本人学生と外国人学生が一緒に学び、自国の教育を振り返りながら、英語で意見交換を行	事前学修日：11/9 実施時期：11/18 事後学修日：11/30	修士レベル	13	未定	未定	1	0ATAY11　教育学課題研究Ⅰ	有				hamada@human.tsukuba.ac.jp		
69	多文化共修活動	フィリピンにおける多文化共修：食料サプライチェーンの災害レジリエンス	Bicol Region	英語・日本	本プロジェクトは、筑波大学、ビコル大学、セントラル・ビコル州立農業大学の学生が共同で取り組む、多文化協働型のPBL（課題解決型学習）プログラムである。台風やマヨン山の噴火といった自然災害が頻発するフィリピン・アルバイ州を舞台に、学生の混合チームが現地でのフィールドワークを実施する。調査では、災害時における地域のフードサプライチェーン（農業、中小企業、物流網）の脆弱性と回復力（レジリエンス）の検証に主眼を置く。学生たちは地域社会への聞き取りや観察を通じ、作物生産から市場アクセスに至る具体的な課題を特定した上で、食料供給の維持と効率化に向けた実現可能な解決策を協働で策定する。本プロジェクトは、学術的知見を地域の喫緊の課題解決に直結させると同時に、国境を越えた相互学習を通じて国際的な視野を	2026/8/22～2026/9/1	学部レベル	30			1	8331173 / A00323　多文化共修による課題解決実習（海外）A / 多文化共修による課題解決実習（海外）	有				mena.aaron.gb@u.tsukuba.ac.jp		
70	多文化共修活動	Campus-in-Campus GASSHUKU: Designing the Future Society Together	つくば市	英語	世界中の13のＴキャンパス・イン・キャンパス」提携機関の学生たちが協力し、将来を見据えた「スマート・スーパー・サイエンス・シティ」の構想を練っています。このプロジェクトは、明日の最も複雑な都市課題には多様な視点が必要であり、異文化間のチームワークそのものが重要な学習成果であるという信念に基づいています。 参加者は文化や学問分野の境界を越えて協働し、エネルギーの持続可能性や急速な高齢化に伴う課題といった差し迫った社会問題に取り組みます。しかし、このプロジェクトは従来の問題解決にとどまりません。AI革命の最前線に位置する学生たちは、まだ完全に顕在化していない倫理的・構造的な課題を予測するという挑戦に直面し、未知の状況に適応できる都市を設計するために必要な、批判的な先見性を養うことになります。	2026.9.27～2026.10.3	学部レベル	25			1	8331163 / 0A00324　多文化共修による課題解決実習（国内）B / 多文化共修による課題解決実習（国内）	有				ohneda.osamu.fu@u.tsukuba.ac.jp		
71	多文化共修活動	Campus-in-Campus DOJO in France 2026: Global Innovators for Sustainable Impact	グルノーブル	英語	これはフランスで開催される8日間の集中型多文化共同学習プログラムであり、Campus in Campusネットワークに加盟する13大学の学生代表が集まり、企業の社会的責任(CSR)のあり方を再定義することを目的としています。参加学生は、自国におけるCSRの実践事例を共有し、フランスの現行モデルを分析することで、深い多文化理解とグローバル課題に対する実践的な知見を養います。その後、参加者は実際のCSRプロジェクトに深く関わり、既存の課題を特定します。そして、新たな持続可能な戦略を共同で策定します。プログラムの最後にはミニカンファレンスが開催され、学生たちは欧州の産業界のリーダーたちに向けて革新的な解決策をプレゼンテーションし、その採用の可能性を模索します。これにより、グローバルなサステナビリティ分野における将来のリーダーとしてキャリア設計を積極的に進めながら、プロフェッショナルなコ	2027.2.7~2027.2.15	学部レベル	9			1	8331173 / A00323　多文化共修による課題解決実習（海外）A / 多文化共修による課題解決実習（海外）	有				ohneda.osamu.fu@u.tsukuba.ac.jp		

No.	カテゴリー	プログラム名 （研修先機関名）	派遣先国・地域 （都市）	使用言語	プログラム内容	実施時期 （期間）	参加対象	募集人数	説明会 実施時期	募集時期	付与単位数	科目名（科目番号） ※単位付与がある場合	多文化共修認定の有無	学生負担の費用	支援金の種類（金額）	開催頻度	問い合わせ先 （メールアドレス）	URL	備考
72	多文化共修活動	SEAMEO SEA-teacher project (Inbound)	茨城県つくば市、埼玉県坂戸市	英語	本プロジェクトでは、「国際的な視野を持つ教育人材の育成」という社会課題を取り上げる。日本においては外国人児童生徒の増加や教育の国際化の進展に伴い、異なる文化的背景を有する学習者に対応できる教員の育成が求められている。一方で、教員養成段階における国際的な実践経験の機会は依然として限られている。 本プログラムは、東南アジア教育大臣機構（SEAMEO）が推進する教員養成の国際連携事業「SEA-Teacher」の一環として、フィリピン・インドネシア・タイの協定校から選抜された教育実習生を受け入れ、日本の学校教育現場における実習機会を提供するものである。本校は附属学校としてその実習の主たるフィールドとなり、授業実践、生活指導、文化交流、メンター教員との協議等を通じて、参加学生に参加型の教育実習を提供する。 あわせて、筑波大学の教職科目「総合的な学習の時間の指導法」と連携し、日本人学生および招聘学生による多文化共修を実施する。具体的には、授業聴講後のグループワークや発表を通じて、各国における教育課題やキャリア教育の在り方について比較・検討を行い、人的資源の国際的移動を前提としたこれからの教育の在り方について理解を深める。 これらの活動を通じて、参加学生は教育分野における国際的な課題を多面的に捉え、その解決に	2027/2/1 - 2027/2/28	学部レベル	10				TSSP	有				nomura.nakao.fa@u.tsukuba.ac.jp		
73	多文化共修活動	国際農業研修VII（マレーシア）	コタキナバル、クアラルンプール、マレーシア	英語	本プロジェクトでは、「多文化社会における共生と生物多様性保全を基盤とした持続可能な社会の実現」という社会課題を対象とする。マレーシアは多民族・多宗教社会であり、多様な文化的背景を持つ人々が共に生活する社会モデルを形成していると同時に、ボルネオ島を中心とした豊かな生物多様性を有している。一方で、開発と環境保全の両立や、多文化社会における教育の在り方は重要な課題となっている。　本PBLでは、マレーシア・サバ州コタキナバルおよびクアラルンプールの2地域をフィールドとし、大学生・高校生・現地学生による国際混成チームでの協働学修を実施する。前半では、マレーシア・サバ大学（UMS）および連携高校との協働により、生物多様性保全をテーマとしたPCMワークショップおよび野外フィールドワーク、マングローブ林での調査活動を通して、環境課題の構造的理解を深める。後半では、筑波大学マレーシア校におけるアカデミックプログラムを通じて理論的な深化を図るとともに、クアラルンプール日本人学校におけるワークショップや交流活動を実施し、学修成果の社会還元を行う。これらの活動を通して得られた知見をもとに、混成グループで課題の整理および原因分析を行い、多文化社会における持続可能な環境保全および教育の在り方に関する具体的な解決策を提案する。本プロジェクトは、現地大学・学校・研究機関との連携を基盤に、継続的な国際協働学修の拠点形成を目指すも	2026/9/29-2026/10/7	学部レベル	7			2	EC41173　国際農業研修Ⅶ	有				nomura.nakao.fa@u.tsukuba.ac.jp		
74	多文化共修活動	国際農業研修Ⅶ（インドネシア）	インドネシア（ボゴール、ジャカルタ、ペカンバル、バンドン）	英語	本プログラムでは、「持続的な森林資源の利用と製紙産業の両立」という社会課題を対象とする。紙需要が継続する中、森林資源の管理と産業活動のバランスは、環境保全と経済活動の両立という観点から重要性が高まっている。特にインドネシアは大規模製紙産業と植林事業を展開しており、実践的にこの課題に向き合うフィールドである。 本PBLでは、APP（Asia Pulp & Paper）および関連施設を訪問し、フィールド実習を行う。企業から産業構造や持続可能性に関する課題について学ぶとともに、森林資源の育種研究施設、植林現場、中央管理施設の視察を通じて、大規模森林管理の実態を多角的に理解する。また、地域住民との対話や野生動物保護活動の視察を通じて、地域社会との共生の視点も取り入れる。 その後、現地協定校学生、本学学生、本学附属高校生徒等による混成グループでディスカッションを行い、現地で把握した課題の整理および原因分析を行う。最終的に、持続的な森林資源利用と産業活動の両立に向けた具体的な解決策をグループごとに提案する。	2026/7/26-2026/8/7	全学生 （大学院生を含まない）	22	2026年6月	未定	2単位	国際農業研修VII(EC41173)	有	約30万円 （航空券代、宿泊費、食費、その他）	はばたけ筑大生 (13万円)(予定)	毎年開催	野村　名可男　准教授 nomura.nakao.fa@u.tsukuba.ac.jp		2023年、2024年実施実績あり 本研修に参加学生のうち3名東南アジアへの学期単位の長期交換留学へ参加
75	多文化共修活動	UT-NCKUサマープログラム（GASSHUKU）	つくば市	英語・日本語	台湾の国立成功大学の大学院学生を1週間受け入れ、ノートセキュリティーに関わる講義・実験・実習を通して、特に遺伝子組換え作物作成方法、検出方法、その管理方法について学び、また日本国内や世界における当該作物の社会受容について現状を学ぶ。さらに、植物と微生物の相互作用の仕組みを実習や座学を通して学び、この研究領域の理解を深め、応用展開について考察する能力を養成する。さらに、本学の日本人学生との交流を通じて異文化理解を促進し、参加学生のキャリアデザイン形成に貢献する。加えて、台湾において厳しい規制の対象となっている遺伝子組換えGMO食品について学生間で意見交換を行い、バイオテクノロジー技術に関する協働学習を通じて、生産性向上や作物のレジリエンス強化に資する受容可能な活用戦略について検討する。さらに、日本および台湾それぞれの社会的・制度的背景を踏まえた応用可能性について考察す	2026/8/2～2026/8/8	学部レベル	10				TSSP	有				suzaki.takuya.fn@u.tsukuba.ac.jp		
76	多文化共修活動	ボルドー・つくば小型ロボット道場	海外	英語・フランス語	社会高齢化及び職場危険軽減は、日本とフランスの生産性における大きな社会課題です。それに対して、ロボットにおける職場の自動化はこれからの社会的なチャレンジです。本プロジェクトでは、両国の学生参加者がワークグループで小型ロボットをデザイン、組み立て、プログラミングして、"追いかけ"及び"相撲"のモチフを用いたタスクでロボットをテストします。最後に、参加者が自分で味わった技術及び文化交流に基づいて、科学コミュニケーション用のビデオを作成し	2027/02/20～2027/03/26	学部レベル	10				GB13923　海外インターンシップ	有				caranha@cs.tsukuba.ac.jp		
77	多文化共修活動	大学スポーツを活用した学生主体のファンエンゲージメントモデル共創プログラム ―UCIと筑波大学による多文化共修PBL―	海外	英語・日本語	本プログラムでは、大学スポーツが有する教育的・社会的価値を大学経営・地域社会との連携に十分に生かし切れていないという課題に着目する。大学スポーツには、競技力向上に加え、大学のブランド形成、地域との関係構築、学生教育、国際交流及び社会価値創出に貢献する可能性がある。一方、日本では、スポーツを大学経営の資源として活用し、その企画・運営を担う学生人材を体系的に育成する機会は限られている。 本プログラムでは、筑波大学体育スポーツ局が実施する「海外先進大学スポーツマネジメント研修」の一環として、University of California, Irvine（UCI）の大学スポーツ運営を題材としたPBLを実施する。筑波大学生は、UCI AthleticsのDeputy Athletic DirectorであるPhil Wang氏をはじめとする職員及びSports Marketing & Fan Experience Internshipに所属する学生から、大学スポーツを活用した経営、マーケティング、ファンエンゲージメント及び地域連携について学ぶ。また、Intern学生との少人数での交流・ディスカッション、ホームゲーム運営へのスタッフとしての参画、Homecoming Dayへの観客としての参加を通じて、運営側と観客側の双方の視点から大学スポーツの価値と課題を分析する。	2027年2月下旬 （3日間程度）	学部レベル	20				8310005　海外先進大学スポーツマネジメント研修	有				oyama.takashi.ga@u.tsukuba.ac.jp		
78	多文化共修活動	Multicultural Co-learning in Bogor, Indonesia	Bogor	英語・日本語・その他	This multicultural co-learning project brings together students from the University of Tsukuba and members of the University Consortium (UC) of SEAMEO-SEARCA for hands-on training in environmental assessment. The program will tackle ecological realities of Bogor, Indonesia, a region integral to the Cisadane and Ciliwung watershed systems. Unchecked deforestation and poor land management practices in the area have accelerated soil erosion, increased flood risk, and degraded water quality, placing significant pressure on both ecosystems and local livelihoods. Working in culturally mixed teams, students will examine the challenges faced by smallholder farmers in Bogor, many of whom operate with limited landholdings and constrained access to technology, capital, and markets which makes them particularly vulnerable to environmental degradation. Students will apply environmental impact analysis methods, investigate sustainable agricultural practices, and critically evaluate land and water management strategies relevant to the local context. At the conclusion of the program, student teams will present their findings and propose actionable strategies aimed at supporting both	2027/01/16-2027/01/23	修士レベル	12			1	8331173 / A00323　多文化共修による課題解決実習（海外）A / 多文化共修による課題解決実習（海外）	有	支援金を超えた費用 （航空券代、宿泊費、食費、その他）	はばたけ筑大生		ゲオンゾン レスター カンケ助教 geonzon.lester.gn@u.tsukuba.ac.jp		